

## 空軍・海兵隊、合同消火訓練を実施 *Air Force and Marines accomplish joint fire training*

July 24, 2018

By Airman 1st Class Gabrielle Spalding  
374th Airlift Wing Public Affairs

暑い夏の日、横田基地の消火訓練場で、防火服を着用し消防ホースを持った米海兵隊岩国航空基地の航空機レスキュー・消防隊と第374施設中隊の消防士たちが、炎上する実物大の模型航空機に立ち向かった。

合同消火訓練が実施された7月16日から20日、空軍と海兵隊の消防士たちは実地消火即応能力の向上を図った。

「海兵隊の隊員たちを迎えての一週間、共に訓練ができてよかった。実火航空機火災や建物火災の対処を訓練しただけでなく、シナリオに基づいたフラッシュオーバー、危険物質、そして懸垂下降などを含んだ訓練を行った」と第374施設中隊訓練副主任フロイドゼル・キンブル曹長は述べた。

参加した海兵隊消防士の一人、第171師団支援中隊のクリスチャン・コザート上等兵は、この訓練によって、消防士としてどう力を発揮できるか別の視点を持たせたことについて振り返った。

「空軍の消防士たちとの訓練は、我々にとってとても重要だ。同じ任務を遂行する上で、他の手法を学ぶことができる。違うタイプの防火服を使用することから違う対応手順を経験するなど、このように他の消防署隊員と共に訓練を行うことで、目で見ると多くのことを知ることができる。それはつまり、自分たちが常に成長できるということを感じさせてくれることでもある」とコザート上等兵は言った。

危険物訓練や航空機実火消火訓練などを通じて、一週間におよぶ合同消火訓練で、空兵と海兵隊員は消防士としての能力を強化するための新たな手段を学んだ。

「我々は米軍の異なる種軍で働いているが、消防という共通の部隊で任務にあたる仲間だ」とキンブル曹長は述べた。

